(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-113752
(P2004-113752A)
(43)公開日　平成16年4月15日(2004.4.15)

(51)Int.Cl.[7]	F I	テーマコード（参考）
A45C 11/00	A45C 11/00 D	

審査請求 未請求　請求項の数 3　書面　（全 5 頁）

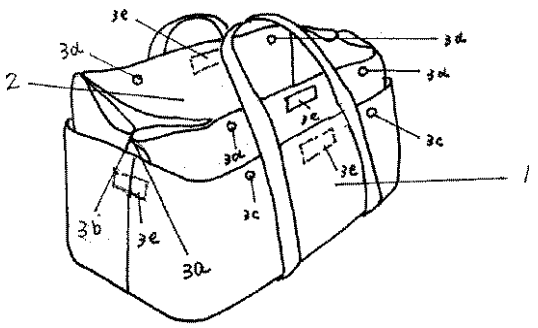
(21)出願番号　特願2002-320535(P2002-320535)
(22)出願日　平成14年9月28日(2002.9.28)

（特許庁注：以下のものは登録商標）
マジックテープ

(71)出願人　502398241
有限会社国石
愛知県海部郡佐屋町大字鰭江新田字郷中９番地
(72)発明者　國石　昭彦
愛知県海部郡佐屋町大字大野字郷西１４８の２番地

(54)【発明の名称】ペットキャリーバック

(57)【要約】
【課　題】この発明は、ペットキャリーバック本体や洗濯機を傷つけることなく、洗濯をすることができ、日常使いのバックとしても使用できること、また、ペット自身の健康状態にあわせて、より快適に運搬できるペットキャリーバックを提供すること。
【解決手段】この発明のペットキャリーバックは、バックの外装部分１を日常使いできるデザインで縫製し、内装部分２は、備長炭繊維やキトサン繊維を使用してブランケットあるいは敷物として縫製するとともに、３ａ・３ｂのホックをはめる事で外装部分に収納できる型にしておき、３ｃ・３ｄのホックと３ｅのマジックテープで外装部分１に脱着可能にしたものである。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
外装部分１と内装部分２とが脱着可能なものとして使用できるペットキャリーバック
【請求項２】
請求項１に記載の内装部分２の材料に、備長炭繊維を使用し、ペットの健康状態に応じて、キトサン繊維を使用した内装に交換することを可能にしたペットキャリーバック
【請求項３】
請求項２記載の繊維を使用し、ブランケットあるいは敷物として使用可能な状態に縫製したものを内装とするペットキャリーバック
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、ペットを運搬するキャリーバックの改良に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来のペットキャリーバックは、外装部分のみで縫製されたものや、内装がついていたとしても、外装に縫いつけられている為に、洗濯をすることが困難であった。
【０００３】
この為、キャリーバック内部に付着したペットの体毛や分泌物の除去には多大な労力を強いられた。
【０００４】
また、ペットを運搬するという目的のみで設計されている為、日常使いのバックとしての汎用性がなく不経済なものである。
【０００５】
運搬されるペット自身にとっても、その健康状態やコンディションのことを考慮されたものは全くなかった。
【０００６】
【発明が解決しようとする課題】
そこで、この発明ではペットキャリーバック本体や洗濯機を傷つけることなく洗濯ができ、日常使いのバックとしても使用できること、また、ペット自身の健康状態にあわせて、より快適に運搬できるペットキャリーバックを提供することを課題とする。
【課題を解決するための手段】
前記課題を解決するため、この発明は次のような技術的手段を講じている。
【０００７】
このペットキャリーバックは、バックの外装部分１を日常使いできるデザインで縫製し、内装部分２は備長炭繊維やキトサン繊維を使用してブランケットあるいは敷物としても使用できるように縫製し、２ａの３ａ・３ｂのホックをはめた状態により、外装部分に収納できる型にしておき、３ｃ・３ｄのホックと３ｅのマジックテープで外装部分１に脱着可能にしたものである。
【０００８】
【発明の実施の形態】
以下、この発明の実施形態を図面を参照して説明する。図１～図５は、この発明の実施形態のペットキャリーバックを示す図である。このバックは、外装部分１を日常使いできるデザインで縫製する。内装部分２は、備長炭繊維やキトサン繊維を使用してブランケットあるいは敷物２ａとして縫製する。そして、３ａ・３ｂのホックをはめることによって、内装として収納できる型となり、３ｃのホックと３ｅのマジックテープを用いることにより外装部分１に脱着可能にしたものである。
【０００９】
この発明のキャリーバックの実施形態図が図１である。
【００１０】

このバックの外装部分１に内装部分２が収納された状態図１をわかりやすく説明する為、上部巾着部分６を除いた状態での斜視図が図２である。外装部分１は、防水性・撥水性のあるナイロン等の化学繊維、あるいは、合成皮革、ＰＶＣ、撥水加工をほどこした天然繊維等の素材からなる。１の外装部分の内側には裏地を付け、裏地と外装部分１との間には、衝撃吸収材等をはさみ込むことが必要であり、底部５は、塩化ビニール板などにより、一定程度の強度を有していることが望ましい。

【００１１】

このバックの内装部分２を、ブランケットあるいは敷物として使用できるように縫製された状態を示すのが図３である。内装部分の表面２ａは、ペットの体に直接ふれる箇所である為、癒し効果のある備長炭繊維やキトサン繊維で縫製する。内装部分の裏面２ｂには、ペットの体毛や分泌物などの汚れをつきにくくする為ナイロン等をあわせて縫製する。そして、組み立てた状態において、底部になる４ａと、襠部になる４ｂ・４ｃとには、ある程度強度のある帆布等を芯材として縫い込んでいる。

【００１２】

ブランケットあるいは敷物として縫製された２ａを３ａ・３ｂのホックをはめることにより、内装部分２の型に組みあがった状態の図が図４である。ブランケットあるいは敷物として縫製された２ａの内部に縫い込まれた底部４ａと襠部４ｂとの強度に加え、３ａ・３ｂのホックをはめることにより、自立が可能な内装部分２となる。

【００１３】

外装部分１と内装部分２とを、３ｅのマジックテープと３ｃ・３ｄのホックとを用いて収納しようとする状態を示すのが図５であり、収納が完了すると図１の状態になる。図６は、図２の上にナイロンメッシュ等で巾着状の袋６をバックの口裏７に縫製した状態であり、口元をナイロンメッシュ等の巾着にすることにより、ペットの飛び出しを防ぐ効果がある。また、メッシュを使用することにより、ペットからすれば飼い主等の運搬者の顔が見える状態となり、ペットに安心感を与える。

【００１４】

図７及び図８は、この発明の形状のバリエーションである。図７は肩からかけて使用するバックの形状であり、また、図８は、背負ったり、運搬者の体の前面でかかえて移動するバックの形状である。

【００１５】

【発明の効果】

この発明のペットキャリーバックは、上述のように構成されており、内装部分のみでの洗濯が可能となる為、洗濯によるキャリーバック本体が縮むといった不都合や、洗濯機本体に対する損傷を防ぐことができる。また、ペットの体毛や分泌物を容易に取り除くことができる為、清潔さを保つことが可能である。更に、内装部分を取りはずした状態での外装部分は、それだけでペットの運搬以外の目的にも使用可能である。このことは汎用性があるという点で経済的でもある。

【００１６】

内装部分を構成する備長炭繊維から発生するマイナスイオンにより、ペットは森林浴と同様の効果を享受でき、遠赤外繊維により、冬は暖かく夏はさわやかな状態を得ることもできる。キトサン繊維を材料とする内装部分に交換することによって、アトピー症をもつペットに対しても、その症状を和らげる効果を発揮する。内装部分はその構造上の利用法として、ペットの運搬後、ブランケットや敷物としても利用可能である。もちろん運搬に供さない場合であっても、日常的にペットのブランケットや敷物として利用可能である。

【図面の簡単な説明】

【図１】この発明に係るペットキャリーバックの斜視図

【図２】この発明に係るペットキャリーバックの斜視図の上部のメッシュ巾着部分を取り除いた状態の図

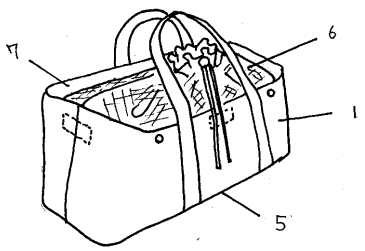
【図３】この発明に係るペットキャリーバックの内装部分を開いた状態の図

【図４】この発明に係るペットキャリーバックの内装部分を立体的に組み立てた図

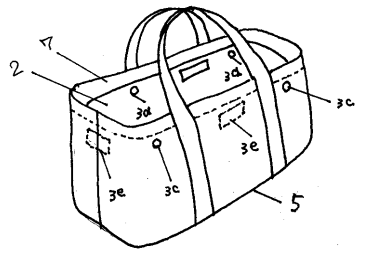
【図５】この発明のペットキャリーバックの外装部分と内装部分を装着する状態を表した図
【図６】この発明のペットキャリーバックの上部に飛び出し防止用ナイロンメッシュの巾着を装着した斜視図
【図７】この発明のペットキャリーバックの肩にかける形態の斜視図
【図８】この発明のペットキャリーバックの背負う、もしくは前にかかえる形態の斜視図
【符号の説明】

1	外装部分
2	内装部分
２ａ	内装部分の表面
２ｂ	内装部分の裏面
３ａ	ホックの凹
３ｂ	ホックの凸
３ｃ	ホックの凹
３ｄ	ホックの凸
３ｅ	マジックテープ
４ａ	内装部分の底になる芯材部分
４ｂ	内装部分の襠になる芯材部分
5	底部
6	飛び出し防止用ナイロンメッシュ巾着部分
7	口裏部分

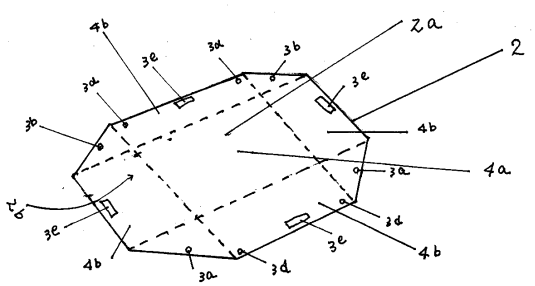
【図１】



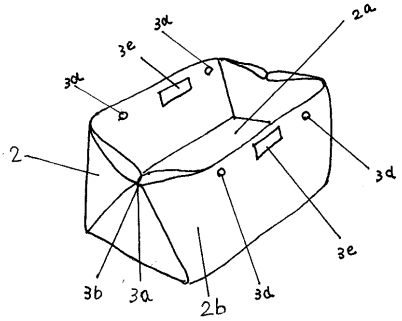
【図２】



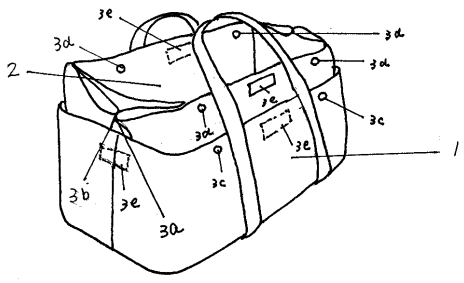
【図３】



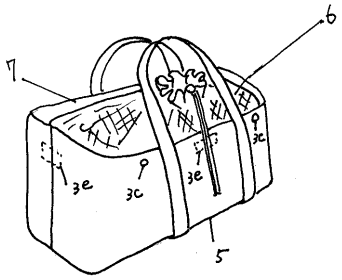
【図４】



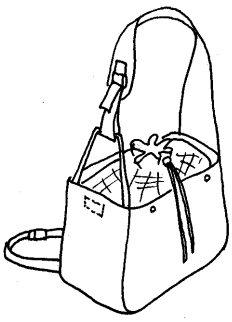
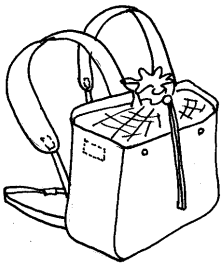
【図５】



【図６】



【図７】



【図８】